



まちの出来事

9/10

速やかな対応と迅速な復旧を図る
**漁港等の被災施設の
 早期復旧に備えた協定締結**



▲宇賀神理事長と升谷町長



▲宇賀神理事長と隠岐4町村長

9月10日(火)、隠岐の島町で一般社団法人水産土木建設技術センター(東京都中央区築地)と隠岐4町村は、災害発生時の漁港関係施設の早期復旧を図るため、災害復旧支援に関する協定書を締結することとし、合同で締結式が行われました。

今回の協定は、災害発生時に漁港や漁場、海岸などの水産関係土木施設の災害が発生した場合に、被災状況の調査や設計業務、資料作成等について専門的な知識と技術を有する同センターから協力支援を行うていただくものです。近年、全国的にも設計業務に精通した技術系職員の減少や技術力の不足等から被災施設の早期復旧が懸念される中、今回の協定締結により速やかな対応と迅速な復旧が図れることとなります。

9/21~30

広げよう事故ゼロしまねの思いやり
秋の交通安全運動



▲今年のみこぴーくんも登場!



▲テント村頑張ったよ

9月21日(土)から30日(月)までの10日間、「広げよう 事故ゼロしまねの 思いやり」を運動のスローガンとして、秋の全国交通安全運動を実施しました。

期間中の24日(火)、27日(金)には、交通安全対策会議委員の皆さんによる街頭指導、26日(木)には、浦ノ谷地区埋立地道路において、交通安全対策会議委員・島前交通安全協会・みた保育園・シオン保育園などの皆さんによる交通安全テント村を実施し、ドライバーをはじめ住民の皆様には交通安全と交通ルールの遵守を呼びかけました。

また、28日(土)には「いかあ屋」において安全運転サポート車体験会が開催され、多くの方々に体験いただきました。

9/25

交通事故のない町づくりを
カーブミラー寄贈式



▲新谷本部長様から升谷町長へ
 目録が贈られました。

9月25日(水)に島根県農業協同組合隠岐どうせん地区本部から西ノ島町へ「秋の全国交通安全運動」に伴い、カーブミラーの寄贈をいただきました。

寄贈されたカーブミラー(交通事故防止機器)は、「交通事故のない町づくりの推進」に役立ててほしいといった島根県農業協同組合の願いから町へ寄贈されたものです。

本年度寄贈いただきましたカーブミラーは、町民の安心・安全な通行を確保できるように随時交換等を行い、交通事故防止と交通安全の取組みに役立てて参ります。ありがとうございました。

9/25

いつまでもお元気に！
100歳おめでとうございます！

9月25日(水)、今年度満100歳になられる方の長寿を祝い、町より祝品をお贈りしました。また、これに併せて、内閣総理大臣より祝状及び記念品が贈られました。

【今年度満100歳になられる方】

柳谷 三男さん (三度)

散歩をされたり、元気に過ごすごことが柳谷さんの長寿の秘訣だそうです。

柳谷さんに加え、町内で100歳以上の方は5名おられます。皆さまも健康に気を付け、いつまでもいきいきと元氣にお過ごしください。



▲柳谷 三男さん

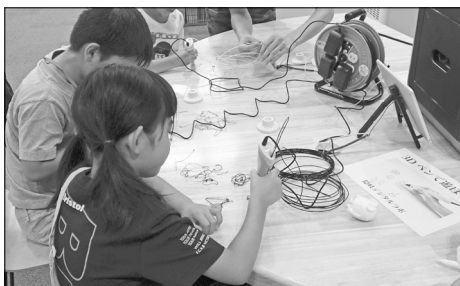
9/28

これからもよろしく願っています
いかあ屋1周年記念イベント

9月28日(土)、西ノ島町「ミニミニ図書館」いかあ屋」の1周年記念イベントが行われました。当日は、朝から雨降りで心配しましたが、お昼前には雨も上がりたくさんの方に来ていただきました。

錦織 良成監督の講演会では、「日本の宝島 隠岐情報と先入観との間で」というテーマでご講演いただきました。また、館内では図書館クイズやおはなし会、ベストリーダーの表彰式が行われ、イベント広場ではたくさんの方の出店、夕暮れコンサートなど、町の皆さんに盛り上げていただきました。

開館以来、たくさんの方に支えられ、いかあ屋は無事に1周年を迎えることができました。これからも、皆さんに愛され、役に立つ「ミニミニ図書館」していきたいと思っておりますので、よろしく願っています。



10/5

ありのままのわたしを生きる
西ノ島町人権・同和教育講演会
を開催しました

10月5日(土)、西ノ島町「ミニミニ図書館」において、京都府立高校教員である土肥 いつき先生をお招きし、『ありのままのわたしを生きる』ために」と題し、講演会を開催しましたところ、約50名の参加者がありました。

土肥先生は、体は男性としてお生まれになりながら、ご自分の心の性、社会的な性(ジェンダー)について違和感を抱えながら生活されてきました。しかし、人生も半ばを過ぎたところ、お名前を現在の名前に変え、トランスジェンダーとしての生活を始められました。このような実体験に基づいたお話や、教員生活の中で出会った生徒たちの思い出について語っていただきました。

笑いの絶えない講演でありながら、随所で「ありのままのわたしを生きる」ために大切なこと、性の多様性について学ぶことができる時間となりました。

